

意識してほしい 「診療所」と「病院」の違い

地域医療支援病院としての役割
困ったとき頼りにしてもらえる存在に
深まりつつある地域医療と病院の信頼関係



副院長兼地域医療連携室長 厨子慎一郎

「病気を診てもらおうとき、普段、あまり気にしていない『診療所』と『病院』の違い。多くの人が、どちらも同じように思っているのではないだろうか。でも、実際は、とても大切な役割分担をしています」と話すのは、厨子慎一郎副院長。

これからますます進む高齢化。診療所はかかりつけ医の役割を担い、病院はより高度で入院を伴うような専門的医療を担当する必要があると意識して使い分けしてもらわなければいけないと話します。

「26年12月に、当院が『地域医療支援病院』の承認を受けてから、一年以上がたちました。開業医の皆さんと積極的に連携し、信頼関係を築いてきた結果、以前に比べて、地域の開業医から紹介され、より専門的な治療を受けるために来院される患者さんが増えてきています。これは、比較的重症の患者さんに待ち時間を少なく受診していただくためにもとても大切なことで、受診される皆さんには今後も適切な病院の利用をお願いしたいと思っています」

このような、病院の適正利用を促す、地域と病院のパイプ役として、地域医療連携室があります。かかりつけ医から紹介を受けた患者さんの治療内容などの情報を、専門医へと伝えます。この情報があるおかげで、迷うことなく適切な専門医の治療を受けることができ、患者さんの負担軽減にもつながっているそうです。

「また、当院の地域医療連携室では、入院患者さんが退院されるときに、在宅で療養が続けられるよう、退院支援もしています。在宅医療に関することや、介護保険制度の利用についてなど、さまざま

「退院して何年もたった患者さんのご家族が、どうしたらいいかと相談に来られることもあるようです。困ったときに、思い出してもらい、頼りにしてもらえる病院。市立川西病院が、そんな存在になっけてきているのならうれし限りです。これからも、地域に信頼される病院をめざして、ますます積極的に地域医療機関との連携を図っていきたいと思っています」



小松菜と桜えびの煮浸し 歯ごたえしっかりカルシウムたっぷり

人権啓発シリーズ
生きる

人権推進課
Tel (740) 1150

自身のありたい姿を再認識

「VW」 あなたのヴィジョンは何ですか？

先日、京都大学 iPS 細胞研究所所長の、山中伸弥教授の講演を聴く機会に恵まれました。専門的でありながら、ユーモアを交えた、大変分かりやすい内容でした。その中で、山中教授が恩師から教わった、研究者にとって大切なこと、それが「VW」です。何の略か分かりますか？フォルクスワーゲン？では、ないです。「ヴィジョン アンド ハードワーク」の略なのだそう。山中教授は、恩師から「シンヤのヴィジョンは何か？」と尋ねられ、即答できなかったというエピソードと共に、多くの日本人はハードワークはしているが果たしてヴィジョンを持っているのだろうか、という投げ掛けをされました。

この問いを受け、私も考えてみました。今の私にとっての、弁護士業務を行う上でのヴィジョンは何か。それは「依頼者に、幸せな人生を歩んでいただくこと」。そのため「依頼者ご自身が描く、幸せな『今』そして『未来』の実現に向けて、共に歩くパートナーであること」。つまり、私自身の経験や、当該案件の見立てをお伝えしつつも、あくまでも依頼者自身に、そのトラブルをどのように解決すれば依頼者が最も幸せになれるのか、を共に考え、作り上げていくこと。改めて考え直すことで、学生時代に弁護士をめざした時の「困った人を助けたい」という気持ちから、更に進んだ、私自身のこうありたいという姿を再認識できました。

皆さんの仕事の「ヴィジョン」は何ですか？春の始まりの今、自身に問うてみられてはいかがでしょう。 (弁護士・元川西市子どもの人権オンブズパーソン 勝井 映子) 【人権標語入賞作品「つたえよう うれしい気もち いやな気もち」小学校2年】

おとな子どもも 食と育つ

健康づくり室
Tel (758) 4721

レシピ 川西・猪名川地域活動栄養士協議会

- 材料 (4人分)
- 小松菜 300g
 - 桜えび 20g
 - 薄揚げ 25g
 - だし 120ml
 - しょうゆ・みりん・酒 各小さじ2
- 熱量 (1人分) : 60kcal、塩分 : 0.6g

- 作り方
- 1 小松菜をさっと洗い、3等分に切る。
 - 2 薄揚げは油抜きをし、細切りにする。
 - 3 桜えびはフライパンで乾煎りする。
 - 4 鍋にだしと調味料を煮立て、小松菜、桜えび、薄揚げを入れ、さっと煮る。

ひとことメモ
小松菜は、免疫力を高めるベータカロテンや、皮膚や血管を丈夫にするビタミンCが豊富です。また、鉄やカルシウムも多く含み、貧血や骨粗しょう症を気にする女性にも頼もしい食材です。

消費生活センターだより
消費生活センター
Tel (740) 1167

染毛剤による皮膚炎に気を付けて！

これまでに染毛剤で異常のない人でも 突然、重篤な皮膚炎になることも

事例 同じ染毛剤で何度も毛染めをしてきた。自宅ですらと同じように使用したところ、顔面が赤く腫れ、首や胸には吹き出物のようなものが出てかゆくて夜も眠れない状態になった。病院に行ったら「染毛剤によるアレルギー症状です」と言われた。

染毛剤のメーカーに相談したら「パッチテスト (皮膚アレルギー試験) をしましたか」と言われた。確かに染毛剤の外箱や取扱説明書には「染毛前には毎回必ずセルフテスト (パッチテスト) をしてください」と書いてあったが、今まで異常がなかったのでパッチテストなどせず使用していた。(40歳代女性)

毛染めは、年代や性別を問わず一般に広く行われていますが、医薬部外品である酸化染毛剤 (ヘアカラー、ヘアダイ、白髪染めなど) は、その主成分がアレルギー性の皮膚炎を起こしやすいことが知られています。軽いかゆみや痛みを無視して毛染めを続けるうちに重篤な症状が現れたり、これまで染毛剤を使用して異常を感じたことがない人でも突然アレルギーを起こすことがあります。

染毛剤を使用する際は必ず毎回、事前にパッチテストをすることが大切です。染毛剤によるアレルギー性の皮膚炎は、染毛の48時間後にもっとも症状がひどくなると言われています。毛染めをする2日前にはパッチテストをしましょう。パッチテストで異常がなくても、染毛後にかゆみ・赤み・痛みなどの異常を感じた場合は、早めに医療機関を受診しましょう。